

復活祭メッセージ

平和が迫害される時代の復活祭

奈良ブロック担当司祭 柳本昭



みなさん、主の復活おめでとございます。

今年の復活祭には奈良ブロックで10人の方が洗礼を受けられました。それは小教区だけでなく、奈良ブロック、そして世界の教会、地球全体にとってもうれしいお祝いです。と

いうのは、主の福音と平和のために働く仲間が増えたからです。洗礼を受けられた方に「おめでとございます」とお祝いの言葉を送りますが、その言葉はすべての人にも向けられているのです。

現在、世界は平和とはいいたい状況です。ウクライナ、中東など実際に戦争が行われている地域もありますが、日本でも平和憲法の見直しや非核三原則・武器輸出の緩和など、平和主義からの転換が進められようとしています。また、排外主義や差別、貧富の格差によって苦境に立たされている方々も大勢おられます。そのような状況の中で、わたしたちは「神は何をしておられるのか」と叫びたくなくともあるでしょう。まさに十字架上の「わが神、わが神、どうして私をお見捨てになつたのですか」というイエスの叫びと重なるのではないのでしょうか。

今回の中東の戦争でも多くの人々が犠牲になっています。従来、正義の戦争のためには死者が出るのは仕方がない、と考えられてきました。また、先進国の利益の

ために、途上国の土地や資源が安価に買い上げられ、土地や食べ物を失う人々も大勢います。イエスが裁判にかけられたのも、大祭司カイアファが言っているように「一人の人間が民のために死ぬのは好都合だ」という考えに基づくものでした。人々が王にしようとしているイエスを処刑することによって、ローマの支配下でなんとか保たれている体制を維持しようとしたのでした。

しかし、イエスは復活されました。それは「一人の人間も、多くの人々の利益のために犠牲になってはならない」という父なる神からのメッセージでした。イエスの弟子たちも、復活されたイエスとの出会いによって、それまでイエスが告げられた福音の意味がようやく理解できたのではないのでしょうか。貧しい人々や体の不自由な人々、排除されている人々が神の国の中心であるというイエスの教えが真実であることを、神はイエスの復活によって明らかにされたからです。

イエスは自分のもとから逃げ去った弟子たちを赦されるとともに宣教に派遣されました。弟子たちも主の復活と神の赦しを告知らせるために勇気を持って出かけていきました。あいさつの言葉は「シャローム、平和があるように」です。ときにその言葉は受け入れられず、追返されたこともありましたが、何人かの人々はイエスを信じるようになりました。そして弟子たちは迫害の時代を迎えるのですが、主が彼らとともに働き、そのような時代にあっても福音は少しずつ広まっていったのです。

現代の世界は平和が迫害されている時代です。しかし、主の復活が弟子たちを勇気づけたように、復活祭を迎えたわたしたちも平和の使徒として、主とともに福音を分かち合う勇気を神から与えられているのではないのでしょうか。